

《令和4年度》 儿童発達支援事業山形コロニー ういる天童 保護者アンケート&自己評価 集計結果表
【情報公開用】

児童発達支援事業山形コロニー ういる天童では、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検を実施しました。より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心して利用していただくことを目的としています。

なお、この自己評価表は厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」をもとに作成した「保護者向けアンケート」の回答結果、及び自事業所の自己チェックとなる「事業所向けアンケート」の意見等を踏まえ、「自己評価」としてまとめたものです。

○：おおむね良好といえる

▲：より良くしていきたい

×：改善が必要

チェック項目		保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○	○	・一人ひとりの療育活動の目標や課題設定等に応じ、人数等も考慮して個別～小グループで活動しています。施設には個室、教室、多目的ホール、庭等を設置。施設外にも、敷地に隣接する畑や公園、近隣地域の散歩等、密にならない工夫を日々凝らしながら大小様々な活動を提供しています。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	○ 「日によって職員数が変わるのはなぜか」との意見あり	▲	・定められている保育士等の配置基準は各ユニット2名ずつですが、当事業所は基準の倍以上の職員を配置しています。 ・職員は、保育士9名、児童指導員5名、社会福祉士4名、精神保健福祉士3名など、国家資格等を持つ職員を配置しています。 ・活動や課題設定等によって、適切な人員配置に日々努めています。今年度は法人内研修を通して、専門性の向上を図っています。
	③ 事業所の空間や設備等は、子どもたちの活動に合わせた環境になっているか。また、環境には分かりやすい工夫やバリアフリー等の配慮がなされているか	○ 「1日のスケジュールを貼るか書くかするとわかりやすい」との意見あり。	○	・当施設は、療育環境としての安心・安全と、全ての利用者にとって分かりやすい環境を追求した『構造化された施設』です。また季節等を感じる・知るを通して生活環境を調整する機会を経験できるような室温調整をしています。また、地域福祉拠点としても、障害のある方や高齢の方等、どなたでもアクセスしやすいバリアフリー環境です。 ・私たちはお子さんの発達状況に応じて伝え方等を工夫しておりますが、より分かりやすくなるよう努めて参ります。
	④ 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか	○ 「手洗い場付近が濡れている」との意見あり。	○	・施設内は常時換気、遊具等を清掃・消毒等は毎日行い清潔な環境を整えるよう心掛けています。 ・これまでもマット等を敷くことも検討いたしましたが、転倒のリスク等もあるため、職員が拭くという対応を行つていまいりました。今後も周知徹底し清潔さを維持できるよう努めます。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	—	▲	・毎日、朝夕のミーティングで共有・振返り等をしています。その日の目標や目的、活動内容を確認し、その後次の活動にどのように反映させていくか全体共有し設定する等、PDCAの実践を日々行っています。 ・限られた時間の中で様々な手段（伝達や記入等）を用い、全職員が確認や共有を進められるよう継続して取り組んでいきます。
	⑥ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	—	○	・保護者の意見は、多くの気づきや学びに繋げ、どのように反映するか検討・実践しています。保護者の意向がなぜそのように出てきたか考えることも大切にしています。引き続き意見をいただきながら、具体的な対処方法や改善策等を模索し、より良い事業所づくりに努めています。
	⑦ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	—	○	・このアンケート結果をホームページで公表し、周知することで情報公開を行っています。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか	—	○	・法人全体では、適切な事業所運営のために内部監査を実施しています。今年度は法人内研修で児童支援を担う職員間でお互いに適切な運営が行われているかチェックしています。様々な意見を取り入れ、より良いサービスの提供に繋げられるよう努めて参ります。
	⑨ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	—	▲	・法人全体研修や事業所研修等、年間研修計画に沿った職員研修を実施し、専門性の向上を図っています。 ・今年度もZOOMでの研修が主体でしたが、障害者権利条約について継続して学んでいます。人権関連の運動にも参加し、実情を学ぶ機会ができています。 ・普段の活動を通して基礎的スキルの確認等を重ねてきましたが、専門性の向上を1人1人がより図っていけるよう、今後も継続して研修等に参加して参ります。

⑩	子どもと保護者のニーズや課題等を捉えた児童発達支援計画が作成されているか	○	○	・現状の課題や成長段階を客観的に確認し、達成できる目標を意識したプランニングをしています。今後も、個別～小集団等のお子さんの状況に合った活動の提供に努めて参ります。保護者や利用児童の思いに寄り添い、不安や疑問等を話し合い、具体的な実践に繋がるよう今後も努めて取組んで参ります。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	－	▲	遠城寺式発達検査表等を用い、客観的評価で発達課題を確認し、療育プランへ適時反映していくよう努めて参りました。今後も全体共有の工夫や関わりの視点等をより確認していけるよう実施して参ります。
⑫	子どもの支援に必要な「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目が、児童発達支援計画で設定され、支援が提供されているか	○	○	・当事業所では、これらの項目が全児童の個別支援計画にもれなく位置づけられています。 ・個々の計画書に基づいた目標の設定や内容等に沿った活動を進められるよう共有に努めています。状況の変化等を鑑みて修正し実践することを行い、適切なサービス提供へ繋いでいけるよう、より一層全体共有を進めて参ります。
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	－	▲	・療育活動等の設定は、全て計画に沿ったもので進めています。 ・計画に位置付けられた発達課題を、日常の療育活動の中でどのように進めていけるか話し合い、遊びの工夫等を行っております。目標の達成を利用児童・保護者と実感できるよう活動の目標やフィードバック等により一層力を入れて取組んで参ります。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	－	○	・個別支援計画に基づく活動プログラムの立案→検討→決定は、毎日のミーティングや共有で、全チームスタッフの意見や客観的な指標をもとに検討しています。母子共に大切な機会を持ち続け、「楽しさ」や「成長」等と一緒に感じられるよう今後も検討を重ねて参ります。
⑮	活動プログラムは、個々の計画等に応じた工夫がなされているか	○	▲	・活動プログラムは支援計画に沿い、活動を設定しています。個々の状況に応じて課題設定等を調整するなど、達成可能な課題設定や活動の設定を重視しています。 ・支援計画の共有、個別の目標に沿った遊びや関わりの工夫等を全体で共有できるよう日々確認や更新に努めています。今後も、保護者の方と共有やフィードバックを行い、「今日もできたね」を親子で重ねられるように取組んで参ります。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	－	▲	・計画時において個々の成長や課題を確認し、個別・集団の活動設定を検討しています。お子さんの成長等に応じた個別、集団での活動を検討し、環境調整に努めています。今後も遊びを通して機会と経験を広げられるよう、職員一同取組んで参ります。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	－	○	・職員間で検討し作成した、日ごとの『支援管理表』を使用しています。確認する時間をもち、支援者の1日の動きや支援内容、利用状況、役割、事業所としての動きや対応(見学等)を具体的に伝達し共有しています。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	－	▲	・支援終了後に毎日振り返りを行っています。支援の設定やねらいへの取組み、気付いた点や次回に繋がる対応について、意見交換等を話し合い、反映させています。 ・限られた時間内で支援や運営等について打合せや紙面で具体的な確認ができるよう努めていますが、今後も業務等の見直しや工夫を行って参ります。
⑲	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	－	▲	・職員には、支援状況等が正しく読み取れる記録技術を確認し、記載後の内容についても再確認をし修正等を行っています。 ・今後も記録をつける中で、求められている記載内容や情報、適切な記入によって活動の検証ができるよう継続して職員全体で取組んで参ります。

適切な支援の提供

	⑯ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	—	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の母子活動時や、面談の場を設定する等して、保護者等から話を伺う機会を大切にしています。 ・通園先や関係機関等との連携を重視し、適時連絡を行っておりますが、今後も幅広い情報共有をし、モニタリングできるよう努めて参ります。
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	—	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。 ・外部連携時には、事前に支援員等と情報共有を行い、現在の活動状況を確認しています。今年度は出席者についても制限が設けられましたが、今後は支援員等も直接関わる機会をもち、より良い連携に努めて参ります。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	—	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の母子保健担当者や発達相談室等と連絡や訪問を行い、お子さんの状況を共有しています。ういる天童の活動についても直接伝える機会をもつよう努めています。 ・今後も、療育での状況等を継続して伝え、相談できるよう続けて取組んでいきたいと思います。
	㉓ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、地域の保健や医療、子どもの主治医、福祉や教育等と連携した支援や連絡を行う体制を整えているか	—	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所は、医療的ケアを要する児童を対象とした事業設定ではないため、体制や設備を整備していません。 ・地域の1事業所として、現状の課題に対して当事業所はどうに考えられるか職員間でも気付きをもつことが大切であると思います。また、医療的ケアが必要のない児童でも、医療等との連携の重要視し、必要によりかかりつけ医等と連携して支援を行っています。
	㉔ 移行支援として、保育所や幼稚園等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や幼稚園を併用する児童が多いので、コロナ禍ではありましたが、できる限り在籍園に訪問や連絡等を互いに行い、現状や目標等を共有したり、互いの環境等を知る機会としても連携に努めています。 ・今後も連携した内容を確認し、ういる天童ではどのように療育を進められるか検討と実践に努めて参ります。
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・就学を見据えた療育活動は、当事業所が最も重要視している考え方です。対象となる児童は「就学移行プログラム」の通じて、具体的な就学準備を進められるよう機会を提供しています。 ・健康課、教育委員会、保育園等をお互いに訪問や連絡を行っています。併用する児童が多いので、小学校等への移行連携は園が主体となる傾向がありますが、療育の場とも共有をする機会が増えています。今後も、移行支援の機会を継続してもらち、共有と連携を進めて参ります。
	㉖ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	—	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の児童発達支援センターから助言を受けることはありません。また、地域で行われる各種研修には参加しています。 ・コロナ禍で直接指導は難しい状況にありますが、これまでの専門医からの助言、指導等を日々確認し、具体的なケースに向き合えるよう努めています。
	㉗ 地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか	○ 「コロナ禍により機会がなかった」との意見あり。	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の収束する兆しが見えず、未就学への広がりも見られていたため、地域交流会「天童コロニー祭り」の開催を今年も中止しました。コロナ禍が収束したら、交流事業を推進します。 ・地域施設への駐車場貸し出しや可能な範囲での除雪作業等を継続します。 ・日常から地域を活動の場としており、挨拶等で顔を合わせる機会を大事にしています。また、隣接する公園は向かいにある保育園の園児、地域のお子さん達と共有しております。
	㉘ （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	—	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も継続して相談支援部会が設置・運営されました。今後、児童発達支援に関連する事業等があれば参画していきたいと考えています。 ・地域課題を確認し、解決の必要があれば問題提起できる事業所でありたいと考えております。また、地域の事業所等との連携を図り、お互いにより良い活動に発展していくよう今後も継続して努めて参ります。。
	㉙ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・「連絡帳」の活用や、母子活動時、お迎えの時等に保護者の方へ話をする時間を持てるよう継続して取組んでいます。 ・活動の様子を保護者と共有し、お子さんの様子が分かりやすいよう、また、家庭との子育てに結びつきやすいよう、伝え方や環境づくりに努めています。今後も親子の関わりや具体的な遊び方等の相談や提案に職員一同で努めて参ります。

⑩	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> 普段の母子活動等で、「楽しい」遊びを通して信頼関係を築くことから始め、安心できる環境を徐々に広げる中で、関わり方、声のかけかた、褒めるポイント等を個々に合わせて共有や確認を進めています。今後も、よりペアレントトレーニングを学び、お子さんの状況を把握した上でお手本となるよう努めて参ります。
⑪	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> 利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更があれば、随時説明し、同意をいただいています。私たち自身も制度等や事業運営について、職員全体への周知と理解を深める取組みを継続して行って参ります。
⑫	保護者に対して、面談・相談・助言等の支援が行われているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 成長に伴い見えてくる・変化する課題、家庭での子育ての悩みや不安、就園に向けてや現状の園生活について、今後の就学等の希望や不安等の相談を聴き、どのように取り組んでいくか継続して話し合いをしています。これからも相談しやすい環境づくり、声のかけやすい信頼関係構築を大切にします。また、具体的な内容の提示等ができるよう努めて参ります。
⑬	児童・保護者が一緒に介する行事等の開催等により、保護者同士の連携・関係づくり等が支援されているか	<p>○</p> <p>「もう少し保護者の方々とお話しする機会があると嬉しい」との意見あり。</p>	▲	<ul style="list-style-type: none"> 普段の母子通所の活動で、保護者同士が顔を合わせて、声をかけたり、繋がりをもつ機会になっています。 昨年に引き続き土曜開所日で親子行事や保護者同士で活動・交流する機会を提供しています。例年開所内容を検討しておりますが、今後も「参加をしてみたい」「参加して良かった」と思っていただけるような企画を提案し、関係づくりに繋がるよう工夫を重ねて参ります。
⑭	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 苦情受付体制は契約時に説明しています。また、掲示、直接受付の実施予定等を連絡網等でご案内しています。今年度は第三者委員の直接受付を2回開催しました。次年度も継続して取組みたいと考えております。 普段から利用者の皆さまからの様々なご意見を、運営に活かしていくよう受付体制の整備等を今後も継続して参ります。
⑮	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信しているか	<p>○</p> <p>「HP等をまだ確認できていない」「楽しく見えています」等のご意見あり。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> 主にホームページにて活動のトピックスを紹介しています。今年はコロナの発生状況等については連絡網の活用、対応についてはおたよりを配布し発信を続けて参りました。土曜開所は館内掲示も行き活動を知る機会を継続してもらっています。今後はういる天童の療育内容や環境についての発信をより分かりやすく伝わるよう努めて参ります。
⑯	個人情報に十分注意しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報は、保護規定に沿って管理しています。より安全に管理できるよう職員間や保護者の方とも確認をしています。今後も個人情報の取扱い等について法人内の保護規定を更新し、継続して管理できるよう職員教育に取り組んでいきたいと考えております。
⑰	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階や関わりの中で、個々人に合った伝達方法を検討、周知し、合理的配慮をもって伝えられるように取組んでいます。必要により言葉を補完するツール等も活用し、お子さんが「わかった」や「伝わった」と感じ周囲と繋がるための手立てをもって支援しています。 どのように意思疎通を図ろうとしているのか確認し、画一的な手段ばかりにならないよう検証と実践を繰返しています。 母子間だからこそ確認できていることも共有しながら、その子の意志や気持ちをしっかり受け取ることをとても大切にしております。
⑱	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> お祭り等の大規模な行事はコロナ禍の収束が見えず中止しましたが、地域の子育てサロンへ参加し交流を続けてきました。天童市主任民生委員の方々にお越しいただき、ういる天童のことをより知っていただく機会をもちました。近隣の事業所に駐車場を貸し出したりと、施設を必要に応じて活用していただくことも継続しています。地域の一つの資源として活用していただけるよう、今後も挨拶や地域貢献活動等を続けて参ります。
⑲	緊急時対応や、防犯、感染症等への対応についての手引きを策定し、保護者に周知されているか	<p>○</p> <p>「訓練などにまだ参加していないのでわからない」と意見あり</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時や感染症等の対応マニュアルを現状に合わせて都度修正・整備し、業務上徹底して管理しています。特にコロナ禍では、消毒等の回数や対象を拡大し、手洗い、マスク、実測検温、生活行動等の確認、密を避けた活動管理等も継続して取組み、安全安心な環境の維持に努めています。 保護者への配布はしていませんが、日頃から活動時に訓練を行うことを周知・説明を図っております。
⑳	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	<p>○</p> <p>「まだ参加したことがないのでわからない」との意見あり</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> 法定訓練として、年2回以上の避難訓練を実施しています。1週間訓練週間をとり、全利用児の方に参加していただいています。 新型コロナ感染対応についても繰り返しを行いながら、リスク管理体制の強化を継続して参りました。今後も継続した訓練と、考えられるリスクに対する対応と検証を重ねて参ります。

非常時等の対応	④① 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	-	○	・昨年は県主催の研修は中止でしたが、今年は開催される予定のためういる天童等からも参加し学びを深めます。また年1回以上は、全職員に法人内・外で研修する機会を継続して持っています。日常の活動の中での気付きを全体で共有し、早期発見・虐待防止に職員一同努めて参ります。
	④② どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	-	▲	・強度行動障害児等、活動に安全管理等が必要なケースは、具体的な対応等を計画に入れ、その内容を説明し、同意を取っています。また、対応の機会を作らないための支援を第一義とし、やむを得ず対応をする時は、必要最小限の対応と支援内容の記録等を行える体制を整えています。 ・職員が上記の内容を「正しく」理解し、組織的な支援・環境の調整等を確認し徹底したリスク管理に努めていきたいと思います。
	④③ 食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか	-	○	・食物アレルギーの有無等については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、医師の診断書の提出をいただき、提供する給食の成分表の3重チェック（保護者、事業所、給食業者）を行ったりと、個々の実情に基づいた上で提供しています。また、日常のおやつ等の提供時も、個々の情報を把握したリスク管理を行っています。
	④④ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	-	▲	・ヒヤリハット等は、職員間でチェックと共有をし、次回からの活動で調整をしています。リスク管理として安全な環境・職員の配置、遊び方等を都度検討し対策を実行しております。今後も必要な視点や気付きを全職員でもっていけるよう継続して行って参りたいと思います。
満足度	④⑤ 子どもは通所を楽しみにしているか	○ 「行きたくないと言うが活動は楽しそうです」「通所を楽しみにしている様子が家でも見られます」等との意見あり。	▲	・ういる天童では母子通所、一時預かりのサービスを個々のお子さんに合わせて活動をしています。お子さんと同じ視点に立ち、信頼関係を築くことから始め、安心できる環境を広げることや、「楽しい！」を見つけて関わることを職員間で進められるようにしています。 ・楽しい遊びや、生活動作、身辺自立に向けたスマーリステップ等の中で、どのような関わりや声掛けをしていくのか、母子活動が家庭の子育てと繋げられるように、何を共有していきたいのか日々考えています。お子さんが「頑張ろうとしていること」に関わり、一緒に確認しながら「できる！」「やってみたい！」自信を重ねられるよう今後も努力して参ります。 ・子育ての家庭環境は多種多様ですが、その中でも療育を利用することの意味を常に考え、活動に参加してくださる保護者の方の気持ちへの気付き、寄り添える対応を高めていけるよう、今後も職員1人1人の意識の向上に努めて参ります。
	④⑥ 事業所の支援に満足しているか	○	▲	ういる天童では母子療育を通して「子育てサポート」をしていきたいと思い活動しています。早期的な療育活動を通して、未就学という限られた期間の中でも、大人が関わる時間を多くもち、丁寧な子育てを重ねていけるよう確認しています。子育てについての考え方等が日々変化する時代に、ういる天童の運営形態やどのような療育が求められているのかに常に気付き、考え、お一人おひとりの満足を高めていけるよう職員一同、邁進していきたいと思います。

職員の配置状況（令和5年1月31日現在）

施設長：1名、児童発達管理責任者：2名（常勤専従2）、保育士：8名、児童指導員：5名

職員の資格 等（令和5年1月31日現在）

社会福祉士：4名、精神保健福祉士：3名、介護福祉士：3名、保育士：9名、児童指導員：5名、
強度行動障害支援者研修修了：6名、リズム運動指導者研修修了者：2名
職場適応援助者（ジョブコーチ）：1名 など